

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 広島常光福祉会	代表者	柿木田 勇	法人・ 事業所 の特徴	法人は「常に光る一番のサービスを提供します」を理念としており、介護サービス事業所を複数運営している。総合ケアげんきは法人の事業所の中の1つである。同一敷地内にグループホームと認知症対応デイサービスを併設し、広い園庭がある。小規模多機能の特性を活かし、利用者のニーズに柔軟に対応するよう努めている。
事業所名	総合ケアげんき	管理者	松永 幸枝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	14人	0人	2人	1人	1人	4人	0人	22人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチフレーズの額を大きくし、紙の色を変えるなどして目立つよう工夫してみる。 ・見学时や契約時に事業所のアピールしたいことを書き出しておく、どの職員が対応しても確実にアピール出来るようにする。 ・事業所新聞に事業所のキャッチフレーズを載せ、利用者や家族にキャッチフレーズを浸透させる。 ・地域の数少ないイベントである秋祭りに、利用者と職員が出向く形で参加出来ないかを検討してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関に貼りだしているキャッチフレーズを大きくし、目立つようにした。 ・事業所のアピールポイントを書き出し、どの職員でも説明出来るようにしている。 ・事業所新聞にキャッチフレーズを載せるようにした。 ・地域の秋祭りに参加する計画を立てた（雨の為、当日中止となった）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が情報共有しているのかどうかは、自分たちにはわからない。 ・自己評価にサマリーと書いてあるが、何のことかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価はわかりやすい表現で記入するようにする。 ・法人のホームページの事業所ブログを更新し、多くの人に事業所を知ってもらえるようにする。 ・地域のイベントには少人数でも参加出来るよう計画する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議をデイサービスのフロアだけでなく総合ケアげんきでも開催する機会を作り、地域の方に事業所内の環境を知ってもらう。それと同時に見学を行い、意見を頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合ケアでの運営推進会議の開催は利用者が不穏になったこともあり、1回のみとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や臭いなどが気になることはない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議などを総合ケアげんきで行う機会を作り、事業所についてもっと知ってもらえるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の中だけでなく外でも、地域の方に出会った時には職員からの挨拶や会話をするようにし、地域の方々との関わりを深め 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々とは、顔を合わせる機会には気軽に話が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員によっては、挨拶が出来ていない。 ・寺子屋げんきの参加者は定着しているが、知り合いに声を掛けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々に会った時は、職員から気持ちの良い挨拶と笑顔を心掛ける。

	る。		参加を促したりもしている。	
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベント、公民館行事などに出向き、地域交流に努める。森林公園のイベント参加やコンビニなどの店で利用者が弁当を買う機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館や地域のイベントには可能な限り参加を計画し、実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の心配な方には、社協の取組みで班長が見守り役になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域情報を収集し、出来る限りイベントなどに参加することで利用者が地域と関われるようにする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で心配な方がいないかを運営推進会議などの場で聞き取り、必要であれば地域包括にも協力を仰ぎ、事例検討などの機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に参加するメンバーからは地域で心配な方の話はとくに聞かれず。地域の方から、総合ケアのことを聞きたいという相談には対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の中で地域の心配な方について話が出たことがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の心配な方がいれば、必要に応じて相談に応じたり地域包括につなげたりする。そのためにも普段から地域に目を配る。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災計画を運営推進会議などの場で提示し、説明する。 ・事業所に防災マップを置き、地域の方もいつでも見られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の防災計画について、運営推進会議で説明を行った。 ・防災マップは事業所に置いており、見てもらうことは出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のほうが防災訓練に参加させてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も事業所で防災訓練を行い、実践的な防災知識を深めるとともに地域の方々との協働に努める。